

**BUỔI**



**Trường văn ②**



## Luyện tập (tiếp)

### 問題 58 :

小学二年生のとき、隣に住んでいたダッグという友だちが、親からバースデープレゼントに「ウォークートーキー」をもらった。つまり「<sup>けいたいよう むせん</sup>携帯用無線電話器」だ。<sup>けいさつかん</sup>警察官や<sup>へいたい</sup>兵隊が使用するものと形はそっくり。ただし子供用に安っぽくできていて、通じる<sup>はんい</sup>範囲はせいぜい百五十メートル。①それでも近所で遊ぶには十分だった。

ダッグが<sup>うらにわ</sup>裏庭の<sup>へい</sup>塀の<sup>うら</sup>裏へ回り、ぼくは家の前の道を渡って<sup>こ だち</sup>木立に<sup>か</sup>駆け込む。そしてだれにも見られなかったことを確認した上で、ボタンを押して交信開始——「ポプラの木まできた。そっちはどこ？ どうぞ」。

<sup>ほうぼう</sup>方々走りながら見えない相手と会話できるというのは、当時のぼくらにとって<sup>しょうげきてき</sup>衝撃的だった。けれど、互いの現在地を確認したあと何を話すのか、中身の面では<sup>もの た</sup>物足りなさい」をいつも感じた。からかい合ったり、小学生なりの世間話をしたり、戦争ごっこにもあの<sup>む せん</sup>無線をずいぶん使ったが、結局、互いの顔を見ながらしゃべったほうが楽しく、「コリンズおさんの庭のスズカケの木で落ち合おう。どうぞ」と合流地点を決めて、スイッチをオフに。

今、東京の<sup>まち</sup>街を歩いていると、携帯電話の会話の<sup>だんべん</sup>断片があちこちから聞こえてくる。仕事の段取りや、部下を叱る上司、恋人をふっているような話などなど。だが、むかしダッグと二人で<sup>さんざん</sup>散々やった現在地確認の類いが、<sup>あつとうてき</sup>圧倒的に多い。車内で、②「いま電車」という言葉を何度耳にしたことか。

こっちは聞くつもりなんか<sup>もうとう</sup>毛頭ないのに、<sup>ぬす き</sup>盗み聞きを強いられるというのが、気に障る主要原因だろう。おまけに内容も、ほとんどが<sup>たいくつ</sup>退屈なしろもので、少々<sup>きょうみ</sup>興味がそそられるはずの<sup>わか</sup>別れ話さえ、ケータイで済まされてしまっていると、かなり<sup>きつぷうけい</sup>殺風景だ。

ぼくはケータイを持たない。一種の<sup>く</sup>食わず嫌いだが、<sup>ぎら</sup>在りし日のウォークートーキーで<sup>あ</sup>だいたい、交信の限界が分かったのか。それに外を歩いているとき、電話に出たいとは思わない。歩きながら考えたいと思う。しかも、他人のケータイの会話に<sup>ぼうがい</sup>妨害されずに。

問い 1：①それでもとはどういうことか。

1. ウォークトーカーが自分のものでなくても
2. ウォークトーカーの形が良くなくても
3. ウォークトーカーで会話しなくても
4. ウォークトーカーの機能が良くなくても

問い 2：②「いま電車」という言葉を何度耳にしたことかとはどういうことか。

1. 他人が「いま電車(の中です)」と携帯電話に向かって言うのを、筆者は何度も聞いた
2. 筆者に携帯電話がかかってきて、「いま電車(の中ですか)」と何度も聞かれた
3. 筆者が携帯電話で相手に「いま電車(の中ですか)」と何度も聞いた
4. 「いま電車(の中です)」と言うダググの声を、筆者は携帯電話で何度も聞いた

問い 3：筆者がこの文章で最も言いたいことは何か。

1. 子供の頃ウォークトーカーで遊んだことは、私にとっていい思い出
2. 今の携帯電話と子供の頃のウォークトーカーは、使われ方が全く違う
3. 現代でも、ウォークトーカーさえあれば、携帯電話がなくても構わない
4. ウォークトーカーで遊んだ経験から言っても、携帯電話は持つ気になれない